

描くこと、語ること、物語ること —部落出身者たちの表現—

日時：2023年5月13日（土）14時

場所：東京外国語大学 海外事情研究所（研究講義棟4階 427教室）

このワークショップは、サバルタンとしての被差別部落の出身者たちの主体的な語りと表現を対象とする。それは、近代国家のレジームに規定された〈解放の主体〉となることの葛藤と、その葛藤を通して描かれる解放の物語である。三人の報告者は、近年の研究成果にもとづき、三人の部落出身者たちの語りと表現を新たな座標軸の上に置くことになるだろう。

全国水平社の創立メンバーであり、水平社宣言の起草者であった**西光万吉**は、アジア太平洋戦争期には国家社会主義者となった。転向という理解ではおさまらないその思想と表現の軌跡を理解したい。

プロレタリア文学運動の流れを汲みながら、解放運動の組織者として、また俳人として凄絶に生き抜いた**土方鉄**について、本格的な検証を試みる。

天皇制と物語という巨大なテーマに挑み、その脱構築をめざした**中上健次**の文学的実践をサバルタンの表現史に位置づける。

【報告者・報告タイトル】

小田原のどか（彫刻家・評論家、多摩美術大学他非常勤講師）

「「転向」の自画像：西光万吉を日本美術史に位置づけるために」

後藤田和（日本近代文学、広島商船高等学校教員）

「運動と表現のはざままで：土方鉄の文学創作」

友常勉（日本思想史、東京外国語大学教員）

「中上健次、その脱構成的政治[distituent politics]」

【コメンテーター】

中上紀（作家）

【司会】

高榮蘭（日本近代文学、日本大学教員）

主催：基盤研究（B）社会運動における生存権・生存思想の影響とその社会に関する基礎的研究（研究代表：友常勉）

共催：東京外国語大学国際日本研究センター比較日本文化部門

問い合わせ：国際日本研究センター icjs-info@tufs.ac.jp